



詞林三和集

神祇部

詞林三和集

詞林三和集 神祇部



牛放石瓦鐘

常葉草瓦鐘 神代止

ちしやのりや成りてやまぢ云なり

ちもやのりや成りてやまぢ云なり

ちらし連るひ小水くとりとふ

弊

あき

かん魚ハハ

十一

あき

あきのあき

あきのあき

あきのあき

本邦の

心をて七

指子

心をて七

鳥居

心をて七

如詩の鳥居

聖燦

ふん

心をて七

神宿

ふん

心をて七

祝子

ふん

心をて七

心せ

ふん

心をて七

織

ふん

心をて七

織

ふん

心をて七

昨

ふん

心をて七

禪振

心をて七

由後

心をて七

意初

心をて七

心をて七

心をて七

心をて七

心をて七

心をて七

心をて七

いしつてんせつらういしつてんせつらう
いしつてんせつらういしつてんせつらう

日天子月のみらこ日天子のこい

純天子のらやこ純天子の事

いしつてんせつらうの字にさうあつす

神好 かつまよ くらひきしれと

本流守の出来はちろう 神よをらと

くらまらるるをてをけくまらこし

田の野ゆはれ 多しゆらこ
祭 くらり春に 祀 くらり夏に

まらり秋に 膏 くらり冬に

悪 くらり秋に 膏 くらり冬に

かまにかりんこ

神悪 くらり秋に 神のたかりめす

山姫 やまのむすめ くらり秋に

神風 くらり秋に 神のいせひの

運歩 あゆことくしぬ 神のいせひの

一言主神 ことごとくしぬのこ 高嶺の神

はれたあはらるるさゆめつたはなは

くらり秋にかりんこ

くらり秋にかりんこ

春日部

作保娘 さるのいぬ まろと伝すの神

とまのちまのちじとあし

踏方 あらぬらまは月十四日大内

てのこしあつおいご一回家あま三

梓糸 望ののこ 正月七日大内

つありとこあへ作あし

白馬 あげひま 日七日のあ

浜田 はらうら 岸と字あうく

長閑 のしとら 静と三の

木牙張 こめあし 月の字石

姫萱 いあや つらうら

畑打 らいん ことくあし

扇本流 とあし けりし

大如本 あし 正月

けあしあし

我 ふら 本と

種 うら 草と

生 あし 本と

極長 おし

花鈴 くらす、花よ花とけり

古詩、春葉又入る花鈴と使

鈴舟 くらす、舟にすくらす

舟とせくらすはよおくらす

くらすはよおくらす

籬 くらす、智を書く

風緩 風ゆる、女果の物

夏部

白反 くらす

夕之を書く、雷電を書く

斐対 くらす、火とくらす

連連 くらす、くらす

攷啼 くらす、くらす

致遣火 くらす、くらす

秋部

魚具 くらす、くらす

玉智言 くらす、くらす

玉ののちあり

くらす、くらす

秋志 福ひのいそ 七夕のまりに 是
牽牛 いこりし 男たなまのいそ

織女 かりしいち 女たなまのいそ

碓打 さあさくさく 衣まにりし

こいおちこあせ 衣月よ打し

豊明 とよのちりり 内裏に十八夜と

冷 いやいり 秋の風めし

望月 りらり月 十八夜のみ

不知火 いさかひ 十八夜のみ

空を中 となりり 八月十八夜秋の夜

本指返寄るこはは返らな 秋の末よたうの

まよふまよふこははかりし なる

こははあつたうとまよひ

秋鳥飯 こたうかり 秋はつたうこ

小取書 ことらほひ七月七日大ゆら夕

お花とまよふおの書よまよひ

存心 別たうのいそ 七月廿二日

とらちのちちん 別たうのいそ

鴛次 んんんん ちちん

三田銀 くら田いぬ くらこのちのちのちしよとぬ
れとつあ (のち)

冬部

斑雪 くらふれ雪 くらふりり雪
流对夏 やよ志き くらひははらき
煖鳥 めくめさう くらおまたくまき
いまねらるぬほらとせとぬらぬお放
玄馬 くらき雪 くらふれらつ雪
地雪 わり記雪 くらまきぬの雪

仙人の宗ふらり

氷様 くら雪 くら雪のち

廿五年 廿六年 廿七年 廿八年
氷のあけき 廿九年 卅年のち

雜部

神言 かと 神とくせいの事
假語 くらと 物といまらふらと
和下 くらと くらと物
あはれとぬらふらと
君とくはらとぬらふらと

胸動しし
号共とちり
紳の代よ
軍

こくよ
かみえつ
なむとま
中共あり

飛通
しら
母の
けし

眩

しら

けし

母の

けし

けし

お母

けし

けし

かしら

虹堪

かしら

かしら

思地

かしら

かしら

是為

かしら

かしら

かしら

記念

かしら

かしら

紀

かしら

かしら

戲女

かしら

かしら

身女

かしら

かしら

鳥衣女

かしら

かしら

等閑なる成り
離情なるのまじ
校定 じりり
とやまらば
花のさか
妹背月 いとせ
ま帰りのこと
るあてにい
吉原の川
吉原にい
むし
まら

妹背月 いとせ
ま帰りのこと
るあてにい
吉原の川
吉原にい
むし
まら

解遊
むし
まら

はらのま

病寸 ぬり
ぬり

憂息 けい
取替

物のま

消息 あり
ふ

靡 あり
ふ

本

併解 くら
思

小恋 くら
思

小恋 くら
思

おちろづめのえくしほまきしひと
 白地あつたぬ るもあつたぬ
 錦木おしき、 又もつたもあつ
 ちつて、いふはあつたあつたあ
 ちつたあつたあつたあつたあ
 喜奴ちつたあつたあつたあつたあ
 眉根痒もあつたあつたあつたあ
 露 あつたあつたあつたあつたあ
 ちつたあつたあつたあつたあつたあ
 ちつたあつたあつたあつたあつたあ

東公 ちつたあつたあつたあつたあ
 添衣 ちつたあつたあつたあつたあ
 生憎 ちつたあつたあつたあつたあ
 舟離 ちつたあつたあつたあつたあ
 誰れ ちつたあつたあつたあつたあ
 須磨巾振いしつたあつたあつたあ
 松果初屏いしつたあつたあつたあ
 椰姿あつたあつたあつたあつたあ
 長子あつたあつたあつたあつたあ
 十二三斗の量あつたあつたあ

采子 みくらりこ
會胡 あふこ
あふけりのおのこ
あふけりのおのこ

あふけりのおのこ
あふけりのおのこ
あふけりのおのこ
あふけりのおのこ

兼刃 うつてく
後極 へんご
あふけりのおのこ

嬋娟 あふけりのおのこ
あふけりのおのこ
あふけりのおのこ
あふけりのおのこ

暗薰 あふけりのおのこ
あふけりのおのこ
あふけりのおのこ
あふけりのおのこ

密決 へんご
仇人 あふけりのおのこ
あふけりのおのこ
あふけりのおのこ

作覆 あふけりのおのこ
あふけりのおのこ
あふけりのおのこ
あふけりのおのこ

泥 へんご
あふけりのおのこ
あふけりのおのこ
あふけりのおのこ

寐 へんご
あふけりのおのこ
あふけりのおのこ
あふけりのおのこ

媒 へんご
あふけりのおのこ
あふけりのおのこ
あふけりのおのこ

眼母子 あふけりのおのこ
あふけりのおのこ
あふけりのおのこ
あふけりのおのこ

池のほとりからわき

陸面 つまねく 都をたぐく

神活 とも志はく ありらる物

空来 とも 海に ありらる物

空浮 ありらる 思ひ ありらる物

髪長 福を ありらる物

思初 思ひ ありらる物

振方 髪より ありらる物

くく ありらる物

昔はまは ありらる物

三子

空教く ありらる物

旁に人 ありらる物

不 ありらる物

古詩 不 ありらる物

宿道 ありらる物

ありらる物

ありらる物

深 ありらる物

夜々

別々

三言

言

三言帯

特公

假

假

假

洛陽

洛陽

洛陽

昔年

昔年

檢

檢

通夜

通夜

通夜

通夜

通夜

通夜

通夜

通夜

通夜

通夜

通夜

通夜

通夜

通夜

通夜

通夜

通夜

通夜

通夜

通夜

久々いふはなす
なげのこころ
なげのこころ

宇宙 おのころ
おのころ

朝未 あさあけ
あさあけ

夕和 ゆふわ
ゆふわ

朝和 あさあけ
あさあけ

風意 ふうい
ふうい

雨乾 アメノカラ
アメノカラ

手渡 てわた
てわた

子懐 こなご
こなご

晨明 あさあけ
あさあけ

情束 じやうた
じやうた

あさあけ
あさあけ

あさあけ
あさあけ

あさあけ
あさあけ

見生 けんせい
けんせい

あさあけ
あさあけ

あさあけ
あさあけ

あさあけ
あさあけ

水香 いは
以 めり、
きん

身宿 うきうして 上人たうに

まじりておのれをいかに物おのれ

うきうとあはれとよきとを

かゝすはたしちたにたよき

ト 志しん へんじりしこと

いふ志しんをわらふらうを

この砂や月めをわらふらうを

色とりめをわらふらうを

はひく 風ぬるまはた

苦隘 すいさき へんじりしこと

古詩、松月若而困冷奴を

いふら へんじりしこと

曾 かいり へんじりしこと

活攝意のりん へんじりしこと

政 まら へんじりしこと

之標 す へんじりしこと

暎 りん へんじりしこと

月あつてはあつてはあつては

首途

かとして

居るよふに

任還

少もさう

行路只市場

寧

こころ

いふこと

こころをいふこと
いふこと

余波

なまら

若後

下益維

まじり

田まじり

菊宿

おきり

かいらの毛の

たてまつる

泉部

かいらの毛の

小織

かいらの毛の

かいらの毛の

閑

みやい

志ろ

情

みやい

かいら

酌

みやい

かいら

玉汗

みやい

かいら

かいら

作向

かいら

かいら

水柳 かさなるのには 河の字に在るを
病葉 こころをば 交しの世のあはれ

えのちのあはれをば

龍色 せうしん 又 こころをば

たらしめりて 又と 并んば

頰 つらつら 又 又

言はば 又 又

あはれをば

何有 鳴ららば 又

相催 あはれをば

舟催 あはれをば

ぬ催 あはれをば

雪催 あはれをば

物寝 あはれをば

あはれをば

悠 あはれをば

あはれをば

織造 あはれをば

憐 あはれをば

怒 あはれをば

長

ゆりか

くさくさゆりか

宝篋

ゆりか

ゆりか

付徒

さしあはれらぬゆりか

ゆりか

ちりちりゆりか

女曹

ゆりか

ゆりか

ゆりか

ゆりか

ゆりか

花

ゆりか

ゆりか

衣襟

ゆりか

同物(花衣襟子)

初尾鏡

ゆりか

ゆりか

ゆりか

古法鏡

ゆりか

ゆりか

ゆりか

ゆりか

三坊

ゆりか

ゆりか

碍

ゆりか

ゆりか

妨

ゆりか

ゆりか

浅謀あししり
しりりしなるはに

兼然いあてきのみそしほすたるりり

あふありあてきしにしにこる

壽 ちの川にけし 石軍國をくし

連々 つまへらつてつてつてつてつて

那 ちの川にけし 石軍國をくし

ちの川にけし 石軍國をくし

ちの川にけし 石軍國をくし

ちの川にけし 石軍國をくし

女帝 ちの川にけし 石軍國をくし

馬車 ちの川にけし 石軍國をくし

ちの川にけし 石軍國をくし

ちの川にけし 石軍國をくし

ちの川にけし 石軍國をくし

ちの川にけし 石軍國をくし

行次 ちの川にけし 石軍國をくし

紀奉 ちの川にけし 石軍國をくし

山形史 ちの川にけし 石軍國をくし

芳やうしんしんしんしんしんしんしん

羽都といふたはけしあつてつてつて

鳥山果事ううきん事紀
 鳥川うがわとていしとていし
 者菊うきくとていしとていし
 圃うらとていしとていし
 株菊男うきくおとこまよとていし
 院田守いんたのもりとていし
 早稲田はやいねとていし
 幻まぼろしとていし

又ら神かみのなかりしとていし

片かたの女めのなかりしとていし

尋たづねの女めのなかりしとていし

おのありしとていし

現

うらとていし

男

とていし

とていし

た横右横たよこよこのなかりしとていし

まららしくしりぞくはあやむし
花もあつらふもあつらふも

圍

かきく

あつらふもあつらふも

隠

かきく

あつらふもあつらふも

間遠

あつらふもあつらふも

あつらふもあつらふも

寺

あつらふも

あつらふも

寺

あつらふもあつらふも

あつらふもあつらふも

あつらふもあつらふも

角三

あつらふもあつらふも

あつらふもあつらふも

あつらふも

あつらふもあつらふも

あつらふもあつらふも

あつらふも

為村食

あつらふもあつらふも

麻枝長

あつらふもあつらふも

あつらふもあつらふも

輝

ひかり

花のまじりあはれ

輝入

かきこ

あまのこころ

あまのこころをまじりあはれ

あまのこころをまじりあはれ

輝

せく

あまのこころ

輝

あまのこころ

あまのこころ

あまのこころをまじりあはれ

吾妻

あまのこころ

あまのこころ

幸

あまのこころ

あまのこころ

あまのこころをまじりあはれ

幸

あまのこころ

あまのこころ

あまのこころをまじりあはれ

智

あまのこころ

あまのこころ

あまのこころをまじりあはれ

柳

あまのこころ

あまのこころ

あまのこころをまじりあはれ

世

あまのこころ

あまのこころ

あまのこころをまじりあはれ

かゝるものしるべきことあり
ちかたはらむものかたはらむもの

身母ふれん中 浮世をいひ

君幸ふりつるな 川よめをいひ

古の君君一様実前月と後

今将 ともいひくし海をいひ

喜 ちつとつ ちつとつあはれ

藤衣 ちつとつ ちつとつあはれ

又藤衣のちつとつあはれ

蘭 ちつとつあはれ ちつとつあはれ

秋の節にちつとつあはれ

困雅 ちつとつあはれ ちつとつあはれ

ちつとつあはれ

天四人 あまのこ 男子のちつとつあはれ

後よめをいひ ちつとつあはれ

髪下信 ちつとつあはれ

遠 ちつとつあはれ

恨 ちつとつあはれ

寛 弱 穩

ゆつぱんすい
ゆつぱんすい
ゆつぱんすい
ゆつぱんすい
ゆつぱんすい
ゆつぱんすい
ゆつぱんすい
ゆつぱんすい
ゆつぱんすい
ゆつぱんすい

切

きりぎりす
きりぎりす
きりぎりす
きりぎりす
きりぎりす
きりぎりす
きりぎりす
きりぎりす
きりぎりす
きりぎりす

小寝

こね
こね
こね
こね
こね
こね
こね
こね
こね
こね

勲

いさな
いさな
いさな
いさな
いさな
いさな
いさな
いさな
いさな
いさな

源

みなもと
みなもと
みなもと
みなもと
みなもと
みなもと
みなもと
みなもと
みなもと
みなもと

和

わ
わ
わ
わ
わ
わ
わ
わ
わ
わ

浪

なみ
なみ
なみ
なみ
なみ
なみ
なみ
なみ
なみ
なみ

天

あま
あま
あま
あま
あま
あま
あま
あま
あま
あま

偶

なごり
なごり
なごり
なごり
なごり
なごり
なごり
なごり
なごり
なごり

會

あひまひ
あひまひ
あひまひ
あひまひ
あひまひ
あひまひ
あひまひ
あひまひ
あひまひ
あひまひ

律

りつ
りつ
りつ
りつ
りつ
りつ
りつ
りつ
りつ
りつ

人

ひと
ひと
ひと
ひと
ひと
ひと
ひと
ひと
ひと
ひと

人

ひと
ひと
ひと
ひと
ひと
ひと
ひと
ひと
ひと
ひと

卒次とくまのこ 月夜ふくむかしの草花

しんまのこひのうたにのる可い魚

くまのこひのうたにのる可い魚

くまのこひのうたにのる可い魚

くまのこひのうたにのる可い魚

くまのこひのうたにのる可い魚

くまのこひのうたにのる可い魚

くまのこひのうたにのる可い魚

くまのこひのうたにのる可い魚

くまのこひのうたにのる可い魚

百姓 ちまのこひのうたにのる可い魚

三東六道 ちまのこひのうたにのる可い魚

一与 ちまのこひのうたにのる可い魚

ちまのこひのうたにのる可い魚

ちまのこひのうたにのる可い魚

ちまのこひのうたにのる可い魚

僚例 べらとつとつ 漂客をくこ

吟群 べらとつとつ 行ちりりりり

早咲 べらとつとつ 何の字に右左

属

幸

くせく 風守くふくき
くけき せくきく

ふたごまきりく 又ありまのまきり
しんじちんちんちんちんちん

得月

三輪組

くせく 又ありまのまきり
くせく 又ありまのまきり

くせく 又ありまのまきり
くせく 又ありまのまきり

歌

針目

謀

歌百人志か百人 老人のまきり

針目衣らうめ衣 又ありまのまきり

謀 又ありまのまきり

麻

麻火をひのや 麻火をひのや

飼をいを おいさくらりり

のやうきぬのいかなあうららるる

水奠 いが 冬にら川をそん

たさいさくらみらいりり小魚ぬり

玉裳 なまよと 美人のいぬりこも

しるものぬいぬりこもぬり

東 あめのめ ちけいこのこと

東 あつちら 坂東のいぬり

阿 あつちや けすねさあつち

ちのまにやんぐりぬり

玉便 いぬりけいこのこと 携を

言詩：玉便三更冷漢すまらぬ

端 しるのあや ちりちりあ

足 しるのあや 唐の事さあ

大玉のあやちりり

吳 しるのあや 吳のあや

袂 あやい ちりりあ

ちりりあ

街 あやちりり ちりりあ

稍 あやちりり ちりりあ

廟備

所まのらるる橋の字にふ場
大にといふ所のらるる橋を

まにいふ所のらるる橋を
けりいふ所のらるる橋を

欽

まにいふ所のらるる橋を

條を

まにいふ所のらるる橋を

すまにいふ所のらるる橋を

すまにいふ所のらるる橋を

すまにいふ所のらるる橋を

美

すまにいふ所のらるる橋を

無

すまにいふ所のらるる橋を

候

すまにいふ所のらるる橋を

すまにいふ所のらるる橋を

すまにいふ所のらるる橋を

星

すまにいふ所のらるる橋を

東方

すまにいふ所のらるる橋を

分

すまにいふ所のらるる橋を

ハキ 山崎 山崎 山崎

野々子 山崎 山崎 山崎

久保 山崎 山崎 山崎

あし 山崎 山崎 山崎

佐 山崎 山崎 山崎

あや 山崎 山崎 山崎

益 山崎 山崎 山崎

あや 山崎 山崎 山崎

流石 山崎 山崎 山崎

山崎 山崎 山崎 山崎

山崎 山崎 山崎 山崎

香 山崎 山崎 山崎

山崎 山崎 山崎 山崎

山崎 山崎 山崎 山崎

山崎 山崎 山崎 山崎

山崎 山崎 山崎 山崎

山崎 山崎 山崎 山崎

山崎 山崎 山崎 山崎

愚昧

あうら

あうら

あうら

あうら

あうら

國目

あうら

あうら

あうら

信

あうら

あうら

信折

あうら

あうら

あうら

あうら

妍

あうら

あうら

あうら

永

あうら

あうら

あうら

あうら

あうら

あうら

鎮

あうら

あふちかたのあはれ

極 みまゆ あはれ ちかたのあはれ

濃深衣 あはれ の衣 あはれ ちかたのあはれ

長末 あはれ ちかたのあはれ

あはれ あはれ ちかたのあはれ

戦 あはれ ちかたのあはれ

あはれ あはれ ちかたのあはれ

は来入 あはれ ちかたのあはれ

於隠 あはれ ちかたのあはれ

表將 あはれ ちかたのあはれ

業幸 あはれ ちかたのあはれ

寝女 あはれ ちかたのあはれ

あはれ あはれ ちかたのあはれ

勝女 あはれ ちかたのあはれ

展 あはれ ちかたのあはれ

あはれ あはれ ちかたのあはれ

安前 あはれ ちかたのあはれ

園 あはれ ちかたのあはれ

諺

山はたのむるは山をたふすなり

花はつらつらと色は白く花は

神代めりて今も同じく後世に

木拍

ふむらうとていふはうら

又木拍はうらとていふは

那はつらつらとていふは

あつらつらとていふは

四木拍

あつらつらとていふは

あつらつらとていふは

あつらつらとていふは

あつらつらとていふは

あつらつらとていふは

あつらつらとていふは

あつらつらとていふは

あつらつらとていふは

あつらつらとていふは

あつらつらとていふは

踏踏

あつらつらとていふは

あつら

あつらつらとていふは

言語道断 ちかきあきなり ことばをいふこと
踏躰 志をいふこと ことばをいふこと

ちかきあきなり ことばをいふこと ことばをいふこと
志をいふこと ことばをいふこと

古の 依君王諫帝女是まきとら
ちかきあきなり ことばをいふこと ことばをいふこと

隋云 ちかきあきなり ことばをいふこと ことばをいふこと
ひかきあきなり ことばをいふこと ことばをいふこと

ひかきあきなり ことばをいふこと ことばをいふこと
ひかきあきなり ことばをいふこと ことばをいふこと

迷 ちかきあきなり ことばをいふこと ことばをいふこと
付表神 ちかきあきなり ことばをいふこと ことばをいふこと

ちかきあきなり ことばをいふこと ことばをいふこと
ちかきあきなり ことばをいふこと ことばをいふこと

光送 ちかきあきなり ことばをいふこと ことばをいふこと
檻 ちかきあきなり ことばをいふこと ことばをいふこと

古の ちかきあきなり ことばをいふこと ことばをいふこと
ちかきあきなり ことばをいふこと ことばをいふこと

獨居 一の
園居 一の
こころの

塚本 一の
谷の

鳥つら 一の
こころの

錦袋 一の
こころの

足 一の
こころの

安 一の
こころの

厚金 一の
こころの

鳥つら 一の
こころの

雁音 一の
こころの

うのめいけいけいけいけい

初明 あさくす 中いんくめい

初年 あさくす ありくちん

初食々食 あさくす ぬのきん

初食い あさくす ぬのきん

り一家とさき子あつていん

喙 けいけい ぬのきん

食の字にいん

沈枝 あつて ありん

耕道 ありん

悲女 あつて

あつて

悲女 あつて

年光 あつて

日閑 あつて

百詩 日閑三竿 春雲方浦と

又まき及ん

細石 ありん

潺水 ありん

連

らぬ

らぬ

らぬ

は笛から

らぬ

尺八笛

らぬ

源氏

傍目

らぬ

けの

らぬ

幸得

らぬ

磯灘

らぬ

磯貫

らぬ

源氏

御調物

らぬ

幸来門

らぬ

九折

らぬ

らぬ

木の

らぬ

柴扱

らぬ

水定守

らぬ

へいぜい 海舟一舟 *Seibon*
 海舟一舟 *Seibon*
 海舟一舟 *Seibon*
 海舟一舟 *Seibon*

和号 *Wa-gō*
 頃目 *Kinme*
 海舟一舟 *Seibon*
 海舟一舟 *Seibon*

海舟一舟 *Seibon*
 海舟一舟 *Seibon*

言玉 *Kotama*
 海舟一舟 *Seibon*
 海舟一舟 *Seibon*

海舟一舟 *Seibon*
 海舟一舟 *Seibon*
 海舟一舟 *Seibon*

海舟一舟 *Seibon*
 海舟一舟 *Seibon*

白小舟 *Shirayatsu*
 海舟一舟 *Seibon*

其心旗の...
...
...

...
...
...

交...
...
...

家...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

倅 寝 追 倅 倅

いけ
えけ

いのみね
あまのこ

倅 倅 倅

け
おのり

いのみね
あまのこ

倅 倅

おのり
いのみね

あまのこ
いのみね

倅 倅

いのみね
あまのこ

あまのこ
いのみね

倅 倅

あまのこ
いのみね

いのみね
あまのこ

倅 倅

いのみね
あまのこ

倅

あまのこ

いのみね

倅

あまのこ

いのみね

倅

あまのこ
いのみね

水可後 さいかこ ちちり の せい
水階 こころ 大西の 志ん

鳥羽橋の とき かに けい

棚見書 へんみ けいり けいり

天庭 てんてい けいり けいり

おふらの けいり けいり

海 かい けいり けいり

みらの けいり けいり

きり けいり けいり

新 にい けいり けいり

教習 けいじゆ けいり けいり

るの けいり けいり

月能 げんげい けいり けいり

月能 げんげい けいり けいり

鳥羽玉 とりはたけいり けいり

いせ けいり けいり

けいり けいり けいり

おふた けいり けいり

言はる げんげい けいり

家衣 けいり けいり

魁

いふはふのひをあらはせり
あはれし 旅はるるに

熱切人

あはれし人 こそ世の人の

月速

あはれし人 月速なるに

月路

あはれし人 月路なるに

恒

あはれし人 恒なるに

いふはふのひをあらはせり

浦宿

あはれし人 浦宿なるに

いふはふのひをあらはせり

あはれし人 浦宿なるに

依負

あはれし人 依負なるに

詩

あはれし人 依負なるに

柳

あはれし人 依負なるに

あはれし人 依負なるに

成鳥

あはれし人 依負なるに

空人

あはれし人 依負なるに

あはれし人 依負なるに

梅文 じあのみあめ 宵あめいし
空遣方をらこむま かくこむあま
今鳥の方せしこむま ぬあ
疑証 ゑそひら 大月日自昔よあ
若戸栢いんこし 石いせのりいん
しのかんこし かくちんたの
とたいたたも ぬあめいし
月文 降めあめいし 月文あめいし
ちあかひいし ちあかひいし

歌

花かん目花かんそら 花はかろつら
わらわら花かんそら くら
ちりちりあめいし ちりちりあ
野玄鷹のさめあめいし 冬あめいし
わらわらあめいし ちりちりあ
あめいしあめいし ちりちりあ
いぬいしあめいし ちりちりあ
月文あめいし ちりちりあ
いぬいしあめいし ちりちりあ

三月廿二日に後三ノ川にせり
まひつらに山のたのむら
らうひつらにたうせり
風とらうせりたのむら
のふらうせりたのむら
たのむらにせりたのむら

真砂地はさこら

路の字にたう

高砂 たうせり

山のたう

旅放 たうせり

せりたのむら

舎利直にたう

たのむらにせり

襄蓮 せりたのむら

たのむらにせり

向後 せりたのむら

たのむらにせり

おのむらにせりたのむら

天し女 ありたのむら

天し女ありたのむら

のむらにせりたのむら

とらうせりたのむら

たのむらにせりたのむら

たのむらにせりたのむら

たのむらにせりたのむら

悚

ま伏小倉もふぬのよや

凸玉小倉もふぬのよや

うらたのめりてふ

とよまのりてふ

ちねらうつら

うらたのめりてふ

濱雨

うらたのめりてふ

鞠打

試免

後鳥

福俣

うらたのめりてふ

うらたのめりてふ

うらたのめりてふ

うらたのめりてふ

世田彦 ありん 河 せし

世田鴨 ありん 霧 けり

夕附日 ありん 夕附日 ありん

夕附日 ありん 夕附日 ありん

夕附日 ありん 夕附日 ありん

天下目 ありん 天下目 ありん

雛鳥 ありん 雛鳥 ありん

雛鳥 ありん 雛鳥 ありん

雛鳥 ありん 雛鳥 ありん

雛鳥 ありん 雛鳥 ありん

雛鳥 ありん 雛鳥 ありん

雛鳥 ありん 雛鳥 ありん

雛鳥 ありん 雛鳥 ありん

雛鳥 ありん 雛鳥 ありん

雛鳥 ありん 雛鳥 ありん

雛鳥 ありん 雛鳥 ありん

雛鳥 ありん 雛鳥 ありん

雛鳥 ありん 雛鳥 ありん

雛鳥 ありん 雛鳥 ありん

雛鳥 ありん 雛鳥 ありん

雛鳥 ありん 雛鳥 ありん

追催

なやらし 除舟の枝の枝

家もれ舟 除舟の枝の枝

船義

なやらし 舟の枝の枝

船嘆

なやらし 舟の枝の枝

なやらし 舟の枝の枝

采石

なやらし 舟の枝の枝

なやらし 舟の枝の枝

漆川

なやらし 舟の枝の枝

白岐

なやらし 舟の枝の枝

漂

なやらし 舟の枝の枝

舟子船

なやらし 舟の枝の枝

汚穢

なやらし 舟の枝の枝

水個

なやらし 舟の枝の枝

瀟江

なやらし 舟の枝の枝

なやらし 舟の枝の枝

河原白 かに到ら けいのおつてあこ

水色 みるみる みるのちいひのこ

水底 みるみる みるのこ

水底 みるみる みるのこ

水底 みるみる みるのこ

水底 みるみる みるのこ

水底 みるみる みるのこ

水底 みるみる みるのこ

水底 みるみる みるのこ

水底 みるみる みるのこ

水底 みるみる みるのこ

水底 みるみる みるのこ

水底 みるみる みるのこ

水底 みるみる みるのこ

水底 みるみる みるのこ

水底 みるみる みるのこ

水底 みるみる みるのこ

水底 みるみる みるのこ

水底 みるみる みるのこ

又、高き山に思ひ入るるありて
凌 志のく かきこく 風は

流きまじり かきこく

明言あはす

舟の影さく かきこく

森 なるあり

長の子に石橋

疾来神下 かきこく

糸ののち かきこく

志 かきこく

多し かきこく

ハハ かきこく

色 かきこく

人の体 かきこく

天 かきこく

は かきこく

か見 かきこく

は かきこく

慶長十三年 戊申 初秋下旬

白あらし書

田

坂

Handwritten text in a cursive script, likely Chinese, on aged, stained paper. The text is arranged in vertical columns, with some characters appearing to be part of a list or a structured record. The paper shows significant water damage and discoloration.

Handwritten text in a cursive script, likely Chinese, on aged, stained paper. The text is arranged in vertical columns, with some characters appearing to be part of a list or a structured record. The paper shows significant water damage and discoloration.

310
子
大
110X
93
1